

体系的・系統的なキャリア教育の充実 ～学校種間の円滑な接続に向けた研修推進体制の構築～

群馬県邑楽郡明和町立明和西小学校 石島 秀一

I 現状と課題

とどまることなく変化する社会の中で、子どもたちが希望をもって、自立的に自分の未来を切り拓いて生きていくためには、変化を恐れず、変化に対応していく力と態度を育てることが不可欠である。今、子どもたちには、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力が求められている。子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し社会人として「自立」していくことが強く求められている。

II 研究の概要

1 地域の実態

(1) 明和町の実態

群馬県の東南端に位置する明和町は、比較的温暖で南に利根川が流れる水と緑が豊富な地域である。町の中央を走る東武伊勢崎線や国道122号、東北自動車道等が配列されるなど交通条件にも恵まれた地域で、本校はその西部にある。町内には、こども園1園、小学校2校、中学校1校、高校1校があり、小小連携、小中連携を中心に、異校種間の連携が図られている。

(2) 明和町の教育の現状

明和町教育委員会では、「社会を切り拓く力を育む学校(園)教育」を重点目標に据え、学力向上を使命とし、「夢や志を抱き、未来に生きる力」を実現する「安全安心な学校(園)づくり」を目指している。

教育委員会主催のこども園も含めた夏季休業中の教職員全体研修会により、学校(園)種間の連携・協力、キャリア教育班の活動等、町内3校・1園が連絡調整しキャリア教育に対する理解を深め、明和町の子供たちの健全育成に向け、研修に取り組んでいる。

2 研究の内容

(1) 小中連携による系統的な推進体制の構築

教育委員会の指導の下、教育活動を効果的に展開するために、推進体制の整備や教育環境づくりを推進した。教育研究所のキャリア教育班を核とした小中学校連絡会議により、推進事業の校内推進について協議した。

(2) 全体計画・年間指導計画の改善・見直し

義務教育9年間を見直し、4つの「基礎的・汎用的能力」の視点から、児童生徒の実態を把握し、児童生徒の実態に応じて身に付けさせたい力等を明確にし、各学校の教育活動の中にあるキャリア教育の断片(宝)をつなぐ。

(3) 授業改善(課題解決型の授業)の推進

各教科の課題対応能力を具体化し、情報活用能力を育てる等、社会的・職業的自立を促すキャリア教育の視点に立った授業を展開する。

(4) 小中9年間をつなぐ

キャリア教育では、小中9年間にわたる継続的な取組が期待され、異校種間で相互の取組の理解を深める場の設定、子どもの学習活動の記録等を引き継ぐ異校種間の連携システムをつくる必要がある。

(5) 学校の取組の具体的な方向性

- 「社会を生き抜く力」育成に向けた授業改善
- 体系的・系統的な校内推進体制の構築
- 体系的・系統的なキャリア教育実践の促進
- 職場体験活動等の職業に関する体験活動の充実
- 学校と地域・社会が連携・協働した取組の促進
- 児童生徒の学習活動の記録の活用
- 教育委員会、町内3校・1園の連携・協働

3 これからの学校とキャリア教育

- (1) 各教員の学校全体の児童生徒を見ていく姿勢
- (2) 教科横断的な視点のカリキュラム・マネジメント
- (3) 特別活動を要としたキャリア教育の推進
- (4) 「基礎的・汎用的能力」育成の重要性
- (5) 社会に開かれた教育課程
- (6) キャリア発達に必要な資質・能力の育成
- (7) 主体的な学びに向かう力の育成
- (8) 教師のキャリア・カウンセリングの充実
- (9) 「主体的・対話的で深い学び」学習過程(授業改善)
- (10) 教育活動の改善のためのPDCAサイクルの確立

III 成果と課題

1 成果

学校全体として推進していこうとする教員の意識の高まりが見られ、社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力や各教科の課題対応能力を具体化する等、キャリア教育の視点に立った授業を展開することができた。

2 課題

社会的・職業的自立に向けて必要な資質・能力を身に付けていけるよう、特別活動の学級活動を要としながら、教育課程全体を通じての実施を図っていく。

キャリア教育では、小中の一貫した取組が期待されている。小中の9年間をつなぐ「キャリア・パスポート」の作成に向け、学校間の連携を強化していく。

小学校での学習履歴を中学校につなぎ、今後の自分づくりのカリキュラムとして、育成したい資質能力の内容系列を捉え指導することが必要である。

IV 提言

校長のリーダーシップの下、教育課程全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要である。

教育委員会との連携を強化し、3校・1園を連絡調整しながら、異校種間の円滑な連携・接続を図った研究・研修を企画・推進していくことが重要である。